

素敵に生きよう

vol.73

人権を考える市民の集い

KABA. ちゃんの自分らしく生きるトークショー

平成29年12月17日(日)、松原市文化会館において、第24回ひゅーまんフェスタの一環として「人権を考える市民の集い」を開催しました。

講師にタレント・振付師のKABA.A.ちゃんを招き、性的マイノリティについてトークショーを行いました。



幼い時から自分を女性だと思っていたKABA.A.ちゃん。現在に至るまでの自分自身の気持ちの変化(悩み、葛藤など)について体験談を交えながらお話ししていただきました。

学生時代

生まれた時から自分は女性だと思っていました。

しかし、小学校高学年の保健体育の授業で「男性とは、女性とは」を学び、自分自身は男性だと気づかされました。

ショックを受け、これからどうやって生きていけばいいのか、すごい

く悩みました。

また、当時から大人しい性格で、女の子っぽい話し方、しぐさだったこともあり、いじめにもあっていました。

みんな平等なはずなのに、どうしていじめられなければならないのか、どうすればいじめられなくなるのか、どうすればこれから楽しく生きていけるのか考えていました。

中学生になってからは、自分自身をさらけ出すようにしました。

友達から性に関することを聞かれても、「そつだよ。だから何?」という感じで言い返していました。

友達が理解し、受け入れてくれたかどうかまでは分かりませんが、そ

れ以上は聞いてきませんでした。中学生生活は、楽しく過ごすことができました。

家族へのカミングアウト

性のことについて家族から聞かれることはなかったので、カミングアウトすることもなく、もやもやしながら思春期を過ごしていました。ある時、きょうだいから聞かれ、カミングアウトしました。

子どもの頃からの振る舞いから、家族も何となく気づいていたので、「やっぱりね」という感じでした。

父も、人生一度だから後悔しないようにしなさいとアドバイスをくれました。

最後に

私は、ダンサー時代(1990年代)、ニューヨークで活動していました。いろいろな性があることが当たり前になっていて、自分がゲイ、レズビアンとわざわざ言う必要もなかったです。

しかし、日本は先進国の中でもLGBTに対する理解が遅れています。

私はカミングアウトしたことで生きやすくなりましたが、カミングアウトするか、できるかどうかは本人次第ですし、良い方向だけに進むとは限りません。

いろいろな性の人がいることが当たり前の中になってほしいですし、皆さん一人ひとりが後悔しない自分らしい生き方を見つけてもらえると嬉しいです。

LGBTについて

- L(レズビアン)
同性を好きになる女性。
- G(ゲイ)
同性を好きになる男性。
- B(バイセクシュアル)
異性を好きになることもあれば、同性を好きになることもある人。
- T(トランスジェンダー)
出生時に決定された性(からだの性)とは異なる性を自認する人。

